

2012年3月21日

愛媛県在宅緩和ケア推進協議会 平成23年度活動報告

1. 愛媛県在宅緩和ケア推進協議会設立の経緯

平成22年度第2回愛媛県がん対策推進委員会（平成22年11月19日開催）で、在宅緩和ケア充実のための専門部会を平成23年度から設置する事が承認される。

2. 第1回愛媛県在宅緩和ケア推進協議会開催（平成23年8月29日）

1) 愛媛県在宅緩和ケア推進協議会

目的：居住地域や病期に関わらず、苦痛なく安心して「家で過ごしたい」と願う患者とその家族の思いをかなえるため、愛媛における在宅緩和ケアの支援体制の確立を目的とする。特に在宅緩和ケアを提供するための連携医療体制の確立を目指す。

機能：推進協議会は、在宅緩和ケアの支援体制の確立のために、愛媛県の在宅緩和ケアの現状を把握し、取り組むべき課題を明確化し、実現可能な具体的活動方策を策定・実行する。

取り組み課題：

- (1) 地域リソースの実態把握
- (2) 在宅緩和ケアを提供するためのモデル事業の実施

3. 平成23年度在宅緩和ケア推進モデル事業の活動内容

1) 事業の目的

日本人の2人に1人ががんになると言われ、がん患者が増加する中、拠点病院での入院期間が短縮傾向にあり、在宅療養における支援が必要とされているにもかかわらず、医療従事者不足などにより、24時間体制の在宅療養支援診療所や訪問看護ステーションによる支援、容態急変時の緊急入院を受け入れるバックベッド体制の確保等、支援体制が不十分な地域がある。

そこで、限られた医療資源の中で、がん患者の自宅のある地域の病院や診療所、在宅療養支援診療所や訪問看護ステーション等が連携を図り、チームでがん患者を支える在宅緩和ケアの連携体制を構築するため、県内各地域の医療・介護・福祉に関する地域資源の実態を把握するとともに、各地域資源に応じた在宅緩和ケアのモデル事業を試行実施し、その検証を通じて全県的な在宅緩和ケアの体制整備を図る。

2) 事業内容

(1) 在宅緩和ケア地域医療資源の実態調査

目的：県内の在宅医療を支える医療機関等のサービス情報のデータベース化を目的とする。

①調査対象：在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、居宅介護支援事

業所、調剤薬局

②調査内容：各事業所の活動状況

各事業所へのアンケート調査

③調査結果：集計後、地域の医療機関および看護・介護サービス期間との連携に活用できるサービス情報のデータベース化

活動報告：各事業所より収集した情報をデータベースへ入力が3月で終了。

今後、データベースを活用し、各医療資源のデータ解析を行う予定。

(在宅療養支援診療所の解析結果の一部供覧、資料1)

(2) モデル事業のデザイン化

1) 在宅緩和ケアチーム連携モデル事業

目的：東予及び南予地域の在宅医療を支える複数の医療機関（病院、診療所、訪問看護ステーション等）がチームを編成し、拠点病院等から退院し在宅療養となったがん患者に対し、24時間体制で対応できるよう支援体制を構築する。

対象地域：東予地区、南予地区を地域とする

モデル事業のデザイン化：

デザインの特徴；在宅緩和ケアのコアのチーム編成

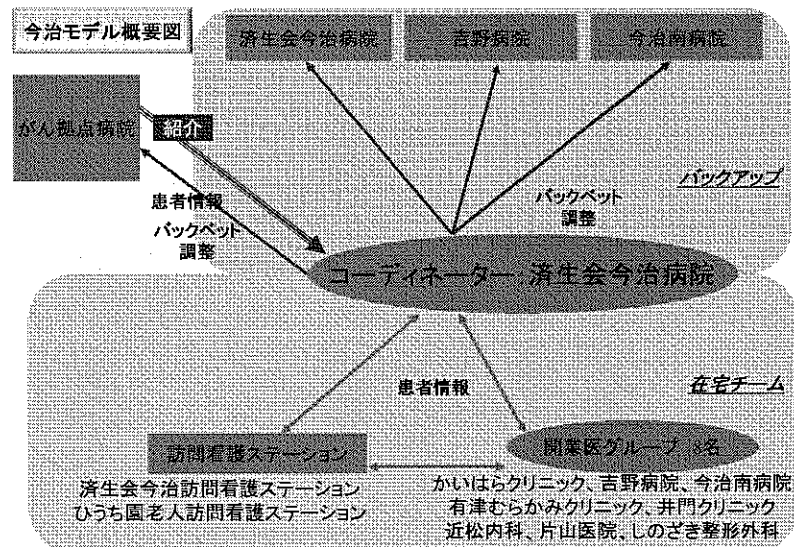
- ・コーディネーター
- ・在宅療養支援診療所
- ・24時間対応の訪問看護ステーション
- ・入院バックアップベッド病院

【東予地区；今治地区】

1. 実施主体；恩賜財団済生会支部愛媛県済生会

(済生会今治病院：がん診療連携拠点病院)

2. モデル事業デザインの概要



①コーディネーター；済生会今治病院看護師が担当

②訪問診療医師 8施設

吉野病院、今治南病院、かいはらクリニック、有津むらかみクリニック、井門クリニック、片山医院、しのぎ整形外科、近松内科

③訪問看護ステーション 2施設

済生会今治訪問看護ステーション、ひうち訪問看護ステーション

④バックアップベッド病院 3施設

済生会今治病院、吉野病院、今治南病院

3. モデル事業の内容

①モデル事業参加施設の訪問診療、訪問看護、緊急入院時のバックアップベッド病院の担当をコーディネーターが調整。

②在宅緩和ケアの実践

③月1回の症例検討の実施

④参加施設スタッフによる月1回の運営委員会の実施

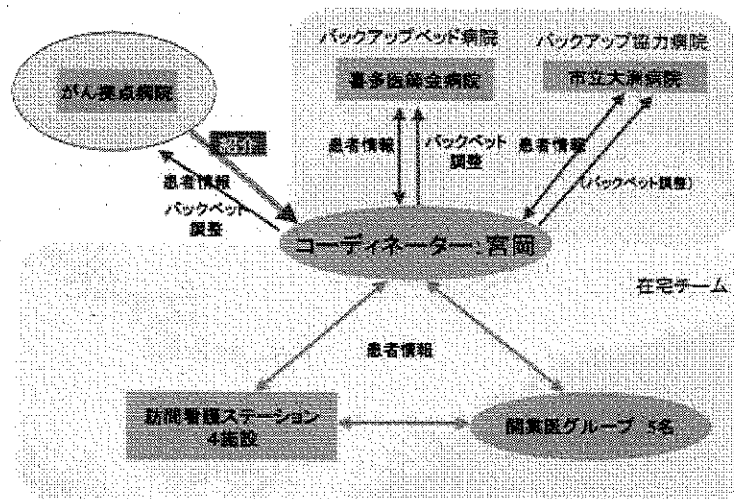
⑤生活支援事業

物品購入、負担金補助

【南予地区；大洲・喜多地区】

1. 実施主体；：社団法人喜多医師会

2. モデル事業デザインの概要



①コーディネーター；喜多医師会訪問看護ステーション看護師が担当

②訪問診療医師 5施設

大久保内科クリニック、古川医院院長、みやうち医院、井関クリニック、菊原医院

③訪問看護ステーション 1施設

喜多医師会訪問看護ステーション

④バックアップベッド病院 2施設

喜多医師会病院、市立大洲病院

3. モデル事業の内容

①モデル事業参加施設の訪問診療、訪問看護、緊急入院時のバックアップベッド病院の担当をコーディネーターが調整。

②在宅緩和ケアの実施

③月1回の症例検討の実施

④参加施設スタッフによる月1回の運営委員会の実施

⑤生活支援事業

物品購入、負担金補助

2) 在宅緩和ケア連携体制構築支援事業

目的：1) の在宅緩和ケアチーム連携モデル事業を支援するとともに、在宅緩和ケアチームの連携に必要な人材育成を行うことにより、在宅緩和ケアチームが継続して地域で活動できる体制を構築する。

実施主体：医療法人聖愛会

1. チームのネットワーク強化を支援するための事業

①今治地区、大洲地区のモデル事業の支援

・月1回の症例検討会の支援

・運営委員会の支援

2. 在宅緩和ケアの人材育成を図るための事業

①今治地区、大洲地区のコーディネーター養成

②ケアマネージャーへの在宅緩和ケア勉強会の開催（東、中、南予で開催）

③かかりつけ医を対象とて在宅緩和ケアのスキルアップを目的とした月1回の定期的症例検討会の開催（中予で開催）

4. 本モデル事業は地域医療再生計画に基づく在宅緩和ケア推進モデル事業として平成24年度から25年度の2年間で実施の予定。